

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第288号 2018年5月30日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニープル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



JEIエスペラント学力検定試験(名古屋会場)の様様

目次

JEIエスペラント学力検定試験（名古屋会場）	2
「アムリラート」の脚本家 J-MENT さんへの直撃独占インタビュー	3
後藤正治さん（享年67歳）	5
『私のエスペラント人生』を聴く会（報告）	6
2018年度センター委員長として（山口真一）	7
2017年度総会報告書	8
新入会の挨拶（今井田健二）・再入会の挨拶（後藤みわこ）	20
活動日誌・活動予定・会員近況	21
東海エスペラント大会速報・編集後記	22

JEIエスペラント学力検定試験(名古屋会場)

受験者6名が来訪、うち1名が維持会員に

表題のJEIエスペラント学力検定試験を2018-03-17(土) 13:30~15:30 名古屋エスペラントセンター事務所で、実施しました。名古屋エスペラントセンターとスカウトエスペラント連盟日本支部が、協力して、JEIからの委託を受けて運営しました。目的は、試験会場として公開することで、センターへの来訪を促進することと、新しい人との接触の機会をつくることでした。

名古屋会場では、申し込み4級試験に7名の申し込みがありました。当日、4級受験者6名(1名が当日欠席)が、センターをはじめて訪れました。試験の説明のあと筆記試験(60分)と、口頭試問(ひとりあたり5分)を実施しました。参加者は20代を中心とした若い世代。試験のあとは、名古屋エスペラントセンターを紹介し、館内を見学してもらいました。また、センターやJEIから、出版物や案内資料をプレゼントしました。

当日は「ことのは アムリラート」のシナリオライター J-MENT氏が応援のためにセンターを来訪していました。試験終了後も、多くの受験者にとってのサプライズゲストご登場とあって、同氏を囲んで、にぎやかな会合が夕方までセンターで行われました。受験者のうち1名が、センターの維持会員になりました。

さて、今回の学力検定試験ですが、実は、従来のもとは違う特徴がありました。次のふたつの企画が織り込まれていたことです。

(a)全国規模での開催

(b)エスペラント界外の団体との連携

センター委員会では、センター事務所の有効活用と会員募集の観点から、近年の「試験志向」への取り組みとしてCEFRやJEI検定試験の名古屋での実施がちょうど話題にあがっていたところでした。また、話題のアドベンチャーゲーム「ことのはアムリラート」の関係者から、昨秋の日本エスペラント大会(横浜)で受験できなかったゲームユーザへの受験機会追加要望があることや、JEIとのコラボが打診されていることも、センター委員の耳に入っていました。

今回の学力検定試験は、当初は東京会場だけの予定でした。そこで、「ことのはアムリラート」の旬コラボとの相乗効果を期待して、名古屋会場での同時開催をJEIに打診しました。沼津、下関も試験会場に手をあげて、4会場での同時開催にこぎつけました。これが項目(a)の特徴となりました。

メーカーからは関連書籍「百合でおぼえるユリアーモ/百合でおぼえるエスペラント」(2月23日)の発売記念として、ゲームユーザ(学力検定試験受験者対象)への特典(メーカー特製グッズ「缶バッチ」のプレゼント)が用意されました。これが項目(b)となりました。コラボ案内がメーカー公式ホームページで告知された直後か

ら受験者数が勢いよく伸び、名古屋会場でも上限8名直前の7名。東京会場では定員いっぱい申し込みになりました。さすが、商業ページの告知力でした。コラボがエスペラント広報のひとつの手段として機能できる例になりました。

報告：堀田裕彦(名古屋エスペラントセンター委員会企画担当、スカウトエスペラント連盟日本支部)

「アムリラート」の脚本家 J-MENT さんへの 直撃独占インタビュー

時：3月17日

場所：名古屋エスペラントセンター

同席者：堀田裕彦、学力検定試験4級受験者6名など

インタビュアー：猪飼吉計

編集委員 はじめまして。基礎的な質問から始めさせていただきます。アムリラートはゲームをしながら、ユリアーモという名の言語、すなわちエスペラントを憶えていくゲームとお聞きしていますが、このゲームは、勝ち負けを競う対戦ゲームなのですか、それとも、得点を上げていくのが目的ですか。

J-MENT 対戦型でも得点型でもなく、いわばアドベンチャー・ゲームのひとつで、ゆり(百合)というジャンルにあたります。すなわち、異世界を舞台に、ふたりの可愛い女の子がたがいに仲良くなるようにしむけることを目的に、プレイヤーが物語の筋を要所所で選択していきながら、追いかけていくという形の「ゲーム」です。

編集委員 とすると、物語の筋を選択しながら追いかけていけば、知らず知らずのうちにエスペラントを学んでいくような、いわゆる教養娯楽ソフトということになるのでしょうか。

J-MENT 会社から依頼を受けたのは、さきほど述べた通りの条件だけでした。エスペラントを持ち込んだのはわたしの考えにすぎず、エスペラントありきの企画ではありません。また、エスペラントの学習支援ソフトを作る意図もありませんでしたし、いまもそういうとらえ方はしておりません。逆に、ここにいるプレイヤーの方に、そのあたりの印象を聞いてみたいですね。(注。結果として、アムリラートで入門した5名のうち、わずか1名が教養娯楽ソフトであるという意見をもっていることがわかった)

編集委員 今後、教養娯楽ソフトを作るつもりはありますか。

J-MENT ありません。

編集委員 ユリアーモとして、エスペラントを採用されたわけですが、つうじよう、こうした場合、クリンゴン(注：「スタートレック」というアメリカのテレビ番組に登場する架空の宇宙人の言語)のように独自の言語を案出するのが普通かと思います。なぜエスペラントを選んだのですか。また、なぜエスペラントという名前ではなく、ユリアーモという名前にしたのですか。

J-MENT たしかに異世界の言語として、まったくあたらしいオリジナルの言語を作る方法もありますが、言語を作るというのはとても難しいことで、自分には無理だと判断しました。その点、エスペラントならば、一般的には未知の言語でありながらすでに出来上がった言語で、調べがつくという理由で、採用しました。エスペラントという名前を用いなかったのは、このゲームがもつてエスペラント界に迷惑をかけるようなことは、避けたかったためです。

編集委員 ここにいる受験生たちは、このゲームをきっかけとしてエスペラント学力検定試験を受けたわけです。ゲームを通して、エスペラントの世界に足を踏み入れようとしています。結果的には、エスペラント界という現実世界と連動したことになると思います。こういう事態は、ゲームの作成時点から想定していたものですか。

J-MENT 監修者・藤巻健一さんの「はじめてのエスペラント」を攻略本として、発売前のコミックマーケットにて、他の関連グッズ、たとえば、Tシャツ、キーホルダー、異世界サバイバルセットなどとともに販売するという戦略でした。語学書が関連グッズとして売られるのは異例のことなので、業界からは驚かれました。しかし、このように検定試験を受けるまでに至るには、それぞれ、かなりの長い道のりだったことでしょう。

編集委員 今回の受験生はすべて4級の受験者でした。今後、こうした受験生用にさらに上の段階や中級レベルに対応した、続編のゲームを作る計画はありますか。

J-MENT わたしの立場では、そのご質問にお答えすることはできません。

編集委員 最後の質問ですが、J-MENT さんとしては、今後、エスペラント界とはどう関わっていくおつもりでしょうか。また、エスペラント界になにか要望はありますか。

J-MENT 今年の奈良での日韓合同エスペラント大会では、関連の分科会を催す予定です。異世界に続いて現実世界でも、完全制覇を達成してください。

編集委員 応援をこころより受け止めます。本日は、わざわざ遠方からお越しいただき、突然のインタビューにもお答えいただき、ありがとうございます。

後藤 正治さん (享年67歳)

1950-02-13 / 2018-02-07

2018年2月7日、後藤正治氏が愛知県稲沢市の自宅で亡くなっているのを、通いのヘルパーさんが発見した。2月13日の68歳の誕生日を迎える直前のことだった。

後藤さんは、1950年愛知県生まれ、京都産業大学外国語学部でスペイン語を学び、卒業後、製薬会社に勤務の後、繊維機械の修理の仕事を長らく続けた。エスペラントには大阪で働いていたときに関わりを持ったと聞く。のち愛知県に戻り、1978年、名古屋エスペラント会に入会し、会計等の仕事をずっと務めた。1979年には名古屋エスペラントセンターの会員となり、1980年から1987年まで総務、広報担当の委員を務め、センター通信を精力的に編集・発行した。



パソコンやカメラが好きで、竹中治助氏が残した戦前の大会等の写真や新聞の切抜を丹念に写真撮影、整理し、今もセンターのサイトに残っている。また、登山が趣味で、2001年から数年、仲間で日帰り登山に出かけたが、登山計画を立て、参加者を車で送迎し、記録を残した。登山や三角点に関する詳細・綿密なサイトを作成し、愛好家に知られていた。

長らく一人暮らしをしていたが、この数年は病気がちで、半身が不自由になり歩行にも難渋していた。仲間で病院に見舞ったり、自宅を訪問して家事を手伝ったりした。訪ねていけば地元名産のお菓子を用意して持たせてくれたりする律儀な人だった。

昨年、エスペラント関係の本や雑誌をセンターに寄贈してくれた。自分にはもうあまり時間が残されていないことを自覚していたのだろうか。昨年12月9日にセンターで行われたザメンホフ祭に出席し、これが会合に出る最後の機会となるだろうと語っていたが、図らずも現実となってしまった。2月9日の葬儀にはエスペランティスト6名が参列した。JEI理事長からの弔電を伊藤が読み上げ、親族の方たちとエスペラントについて話が咲いた。山田義さんがLa Esperoを歌って出棺を見送った。(伊藤俊彦)

Pri la bedaŭrata s-ro Goto Syozi

(出典：JEI “La Revuo Orienta” 2018年4月号) 後藤 正治さん (享年67歳)

1950-02-13 / 2018-02-07

『私のエスペラント人生』を聴く会」（報告）

3月25日、午後1時半から3時、名古屋エスペラントセンター事務所にて標記の会が開かれました。11人が参加しました。

昨年ザメンホフ祭では同様のプログラムがあり、これに黒柳吉隆・藤本日出子・山本修・江崎雅康の諸氏にお話をいただきましたが、今回の会はその続編ともいべきものです。米川五郎さんはレジメを配布し、梶弘和（故人）との邂逅にはじまるエスペラント人生を絆という視点で振り返り、あわせてご自身が専門とされる栄養学の観点から健康についても触れられました。山田義さんは、タブレットパソコンとプロジェクタを使って、御自身が出会い交わった多くのエスペランティストとの思い出を話されました。

「高齢化」が進んでいるといわれるエスペラント界ですが、それを否定的にとらえるのではなく、豊富な経験を次世代に伝えるような場をつくっていくことが大切ではないかと思えます。年を重ねることで気づくこともあります。今回、名古屋エスペラントセンターに入会した30歳代の新会員の方も熱心に聴いていただいたようで、この会を催した意義があると感じました。（山口真一）



2018年度 センター委員長として

山口真一

3月25日（日）、名古屋エスペラントセンター総会にて9名の委員が選出されました。昨年度まで委員であった後藤好美さんは、家庭の事情により辞退され、永瀬義勝さんが新規に委員となりました。それ以外は昨年度と同じメンバーです。残念ながら委員会はすべて男性になってしまいました。男女共同参画が謳われている現代、このことは問題視されてしかるべきです。しかし短期に解決できる問題ではありません。長期展望の中で課せられた課題です。

4月24日（火）に第1回の委員会が開かれ、互選により私が昨年に引き続いて委員長となりました。2期目となりますので、基本的には昨年度の活動を踏襲しつつ、反省点を踏まえて強化向上をめざします。

特に重点方針として、下記の三点を掲げます。

1. 対外（対社会）イベントの質的向上

昨年始めて取り組んだイベント（サマーセミナー、グローバルフェスタ）は、より訴求力を高めたものにします。このための資材（画像・動画・テキスト・アプリケーション）の開発もすすめます。

2. 図書館機能の充実

昨年より3名の委員により、パンフレットなども含めて蔵書の整理・データベース化が進められています。膨大な点数ですので時間はかかりますが、進展状況を折に触れ報告できるようにします。

3. 会員拡大

財政基盤強化のためには会員数を増やすことが絶対条件です。このために、リーフレット「入会案内」を作成します。これを活用しながら、いろいろな機会に入会をお願いしていくことになります。

もちろん他にも課題はいくつかあります。例えば、国内外主要エスペラント団体との連絡強化、事務所の整備、販売図書の本棚の整備、機関誌誌面の充実など。9人もの委員がいるわけですから、協力して前進していきたいものです。

また、会員（維持員）の皆様には、

1. 会費のランクアップ、あるいは寄付
2. 機関誌への投稿（特にエスペラント文）
3. イベントへの参加
4. 事務所の自主使用（学習会、懇談会、図書閲覧など）

などについてご協力いただき、ともにエスペラントセンターを盛り立ててくださるようお願いいたします。

2017年度総会報告

総記

場所 センター事務所

日時 3月25日（日）15時から18時

議長 永瀬義勝

書記 前田可一

会員数45名 委任状23名 会員出席9名（オブザーバー2名）

定足数を満たし成立

会計報告（鈴木善彦）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	572,863	家賃	440,640
会費（2018年12月まで）	461,000	共益費	155,520
会費（2019年1月以降分）	456,000	保証協会	7,500
寄付	123,667	電気代	94,623
本の売上	85,526	通信作成代	10,000
企画（ザメンホフ祭）	54,500	切手代等(郵送代)	27,108
部屋使用料	0	図書購入費・送料	24,552
鍵使用料	10,000	手数料	1,870
利子	3	サーバー使用料	25,920
その他（切手）	4,648	ザメンホフ祭関連	44,170
		その他	7,254
(小計)	1,195,344	(小計)	839,157
		次年度繰越金	929,050
計	1,768,207	計	1,768,207

企画

「エスペラント・セミナリーオ」参加者歓迎会

日時：2017年5月5日（金）午後

場所：名古屋エスペラントセンター事務所

主な内容：「エスペラント・セミナリーオ」参加者の一部をセンターに迎え、見学と歓談。

（午前には市内の観光地を案内）

参加者：14人+センター委員？人

エスペラント運動セミナー

日時：2017年7月8日（土）午後4時～6時

場所：名古屋エスペラントセンター事務所

主な内容：永瀬義勝氏によるトーク

参加者：7人

総括：unuaj libroj por esperantistoj をテキストに、エスペラント運動の原点を考える、という狙いであったが、実際には雑学的话题に終始した。

ザメンホフ祭・第一部

日時：2017年12月9日（土）午後2時～5時

場所：名古屋エスペラントセンター事務所

主な内容： 「私のエスペラント人生」（黒柳、江崎、藤本、山本）
本の紹介（伊藤、前田、山田、津田、山口）
vorto-ludo

記念品：特製ボールペン

参加者：18人（前年対比+1）（初参加2人）

総括：新しい形式としてトークセッションを取り入れたこと、また娯楽的な内容としてvorto-ludoを入れたことで、内容を充実させることが出来た。

ザメンホフ祭・第二部

日時：2017年12月9日（土）午後5時半～

場所：名古屋エスペラントセンター事務所

参加者：14人（前年対比+5）

総括：イタリアン弁当の仕出しをにより費用を安くし、充実した歓談の時間を持てた。

愛知工科大学 エスペラント発音指導 (愛知工科大学工学部情報メディア学科@蒲郡市)

[日時] 2017-06-27 (火) [指導員] 堀田委員

[日時] 2017-07-03 (月) [指導員] 山口委員

[内容] 工学部情報メディア学科 杉森順子准教授のメディア実験の授業が、第2回エスペラント動画コンクールに応募できる動画を作成することと学生の目標と設定。JEIを通じて、エスペラントの発音指導の要請があり、NECの2委員が対応した。エスペラント語教育を狙うのではなく、プレゼンテーション授業を応援することを主眼に先方の期待に応える対応をおこなった。学生たちが制作した動画作品のうち1点が、奨励賞を受賞した。学生たちにとってよ良い経験、良い思い出になったと、杉森准教授からは謝辞をいただいた。動画に限らず、大学関係や、メディア関係のためのNECとの繋がりができた。

[報告提出] RO+LM 堀田委員

第29回愛知サマーセミナー、出前講座 (同朋学園名古屋キャンパス@名古屋市中村区)

[日時] 2017-07-15 (土) 14:50/16:10 (4限目)

講座番号 D103, 講座名 国際語エスペラント入門講座, 講師 永瀬義勝

受講生 1名 (女性: 高校英語教諭)

[日時] 2017-07-17(月) 11:10/12:30 (2限目)

講座番号 J128, 講座名 国際語エスペラント入門講座, 講師 永瀬義勝

受講生 2名 (愛知淑徳2年生女子、佐藤順さん[山口委員の知人、サマーセミナースタッフ])

[内容] 愛知サマーセミナーとしては数十年ぶり、NECとしては初めてのエスペラント講座開講となった。膨大な講座の片隅ではあるが、高校生や教育関係者に、エスペラント語の広報はできたと思う。こういう場に適した教材の選定が課題。参加者数が伸びなかった原因は不明だが、語学講座としたためではないかと推察もある。語学講座枠だけにとらわれない取り組みが必要かもしれない。(堀田)

授業内容を練り上げる必要あり (山口)

[報告提出] RO 堀田委員、LM 永瀬?(書くとおっしゃっていたが記事を見た記憶なし)

第102回世界エスペラント大会 (大韓民国ソウル市)

[日時] 2017-07-??。[担当] ? 現地でNEC関係者の食事会

[報告提出] RO LM ?

NECブース出展 (第104回日本エスペラント大会、神奈川県横浜市)

[日時] 2017-10-03 (金) -05 (日) [担当] 猪飼委員

[内容] 書籍販売など

[報告提出] ?

コラボフェスタ (?@名古屋市中区)

[日時] 2017-10-14(土)-5(日) [担当] 後藤委員

[内容] ブース展示、資料配布など

(教育の項を参照)

Marks Gabor来訪、講演 (名古屋エスペラントセンター事務所@名古屋市中区)

[日時] 2016-10-30(月) 夕刻 [担当] 猪飼委員

[場所] 名古屋エスペラントセンター事務所

近くで食事会 (ビストロ・ドウ・ミツにて歓迎会を催しました。出席は本人も含めて6名。)

[報告提出] ?

JEIエスペラント学力検定試験 (名古屋エスペラントセンター事務所@名古屋市中区)

[日時] 2018-03-17(土) 13:30/15:30 [担当] 堀田委員 [場所] 名古屋エスペラントセンター事務所

[内容] NEC事務所への来訪を促進することと、試験での新人との接触を図る機会として実施。名古屋エスペラントセンターとスカウトエスペラント連盟にてJEIからの委託をうけ、名古屋試験会場として開催。今回のJEIエスペラント学力検定試験が、話題のアドベンチャーゲーム「ことのはアムリラート」とのコラボを実施していたことで、名古屋会場だけで、申し込み4級試験に7名(1名欠席で、受験は6名)。参加者は20代を中心とした若い世代。同ゲームのシナリオライター J-MENT氏の来訪もあり、試験後も残った受験生たちで、にぎやかな会合となった 受験者のうち、以前よりJEI会員だった1名がNEC維持員になった。

[報告提出] 未実施

(参考)

東海エスペラント大会

日時：2017年5月27日 (土) 28日 (日)

会場：愛知県青年の家

主催：東海エスペラント大会準備会

(実質は有志として黒柳吉隆、後藤好美、堀田裕彦、NEC協力)

主な内容：

講演「Fejsbuko kaj Esperanta veganaa kafejo」(アレクサンドラ綿貫)

講演「北朝鮮訪問記」(山田義)

紙芝居：朝鮮昔話「春香伝」(山田義)

スライド「エスペラント聖書訳の主な歩み」(猪飼吉計)

参加者：31人

備考：猪飼委員が担当として、インド人夫妻のの招待を計画したが、先方の条件(夫人がエスペラントを話せない)のため不成立。代わりにアレクサンドラ綿貫を東京から招聘した。

RH中部地区同窓会

(名古屋エスペラントセンター事務所@名古屋市中区)

[日時] 2017-06-24 (土)

活動計画(案) (堀田)

(以下の思いつきとして列举)

- 海外から来訪のエスペランティストとの交流、活動(通年)
- 第67回東海エスペラント大会への協力(5月)
- 第30回愛知サマーセミナーでの広報(7月)
- 八ヶ岳エスペラント館合宿(9月)
- 日本韓国合同エスペラント大会(奈良市)でのNECブース出展(10月)
- コラボフェスタ (10月?)
- ザメンホフ祭(12月)
- JEIエスペラント学力検定試験名古屋試験会場(翌年?)

企画と教育と広報の連携をめざすこと (山口)

- 企画としては委員会の了解を得た上で積極的なイベント展開をめざす
- 個々のイベントについては、専属担当者を委任する
- 事後フォローまでを展望しておくこととその戦術(講師団連絡)
- 終了段階での総括と報告をルーティンワーク化すること
(担当者⇒WEB/機関誌/広報)

インターネット関係

ウェブサイト

- 2018年3月7日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Dio ne havas eklezion"を追加しました。
- 2017年12月30日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Konvinka kamuflaĵo"を追加しました。
- 2017年12月30日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。(285号)
- 2017年12月18日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Idoj de la imperio"を追加しました。
- 2017年12月17日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Kvazaŭ ĉio dependus de mi", "La bato", "Neokazinta amo", "In Flanders Fields / En Flandraj Kampoj"を追加しました。
- 2017年12月12日 [行事案内・報告]2017年ザメンホフ祭の報告 を追加しました。
- 2017年11月7日 [行事案内・報告]行事案内 を更新しました。
- 2017年10月11日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。(284号)
- 2017年10月11日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Krimeo estas nia"を追加しました。
- 2017年9月21日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"Mallongeco de la vivo"を追加しました。
- 2017年9月11日 [図書館]>[蔵書紹介]を更新し、"蔵書印のある本について — 比嘉春潮蔵書のこと"を追加しました。
- 2017年8月20日 [図書館]>[蔵書紹介]を更新し、"梶弘和蔵書について"を追加しました。
- 2017年8月20日 [図書館]>[蔵書紹介]を更新し、"「『緑の聖書』から』の表紙をめぐる謎について"を追加しました。
- 2017年8月18日 [図書館]新規コンテンツとして蔵書紹介を設けました。
- 2017年8月7日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。(283号)
- 2017年6月26日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加しました。(282号)
- 2017年6月26日 [行事案内・報告]行事案内 を更新しました。
- 2017年5月13日 [行事案内・報告]行事案内 を更新しました。

- 2017年5月2日 [NEC案内]委員会メンバーを更新しました。
- 2017年4月27日 [掲示板]従来の掲示板が使用不可になったため、新たなレンタルサーバー（teacup）で設置しました。

上記の通り、20回の更新を行った。これは昨年度の更新回数の2倍。
 （大半は書評と図書関係）

Facebookページ

- 「いいね！」23人（前年対比+1）・フォロワー数114人
- ウェブサイトと比べ、情報が早いこと、および編集権限をもつ7人は自由に投稿・編集できることが特徴。
- 2017年は30本の記事がアップされた（前年は44本）。読書会案内、「センター通信」発行のお知らせ、イベント案内など。
- 日本語が多いが、エスペラントの使用頻度を増やすべきである。

メーリングリスト [esperantistoj_de_tokai]

- 投稿総数8件（前年対比+6）活発とはいえないが、機関誌及び公式サイト、Facebookの補完的役割。
- 配信メンバー41人（前年対比+8）ただし重複あり

掲示板

- 新たにteacupのレンタル掲示板を使用開始。
- 13件の記事。ほとんどはセンター事務所使用予定。これにより、使用状況が一目で把握でき、また管理を一元化できるようになった。

教育

水曜勉強会

毎月ほぼ2回 18時～20時

参加人数：3-4名

講師：小川一夫氏

金曜勉強会

毎月ほぼ2回 17:30-19:30

参加人数：2名

講師：小川一夫氏

その他：ワールド・コロボ・フェスタ

(10/14,15) で3人連絡先を明記

その中の小牧在住の女性1名：11, 12月各1回、犬山で後藤が勉強のお手伝いをしたが、今年は連絡不通

(下記は「センター通信」より引用)

フェスタ総来場者数は7万人弱、当センターのブースには300人ほどが来場。200人近くにアプリチラシと日本エスペラント協会のチラシを配布できた。その中の二人に氏名・連絡先を書いてもらえた（現在は個人情報との関係でなかなか知らせてもらえない）。かなりの若者・大学生が興味を持ち、なかには熱心にこちらの説明を聞いてくれたり、宮沢賢治の親族の玄孫（やしゃご）という学生にも会うことができた。（残念ながらエスペランティストではない。）

多くのエスペランティストが応援に駆けつけてくれ、ベトナムのフォン・ブイさんと山田義さんの孫娘のアイカさんも張り切ってお手伝いをしてくれた。

(蔵書担当)

1 蔵書の去年の仕事と今年の計画と課題（山田義）

(1)交換機関紙などで届いた地方会の機関紙の整理は、前田さんが順次ファイルに綴じた。

(2)5月のJEI セミナーにちなんで本棚から重複本を取り出して整理した。重複本は廃棄せず本棚の上にヨコ積みとした。

(3)本のデータ化の基とするための、本に固有番号を振り、容体の撮影を試験的に開始した。撮影は2018年中に終了予定。写真を元にしてデータ化の作業が必要となる。複数の協力者で Google drive などを利用してデータ入力も開始したい。

(4)資料や書籍をスキャンしてPDF化。「センター通信」や新しく発行されたものを電子データとして保管したい。個人のパソコンでは散逸する恐れがあるので。

『三重県エスペラント運動史』の印刷に使った版下をそのままセンターの保管するデジタルデータに加えていいと山本修さんから承諾いただいた。

(5)雑誌の合本製本をした。一部の雑誌が材料欠如で滞っている。来年は1月中に材料を揃えたいので提供者の協力を。

(6)課題として電子データの保管場所（規模と予算）をどうするか。それをどう利用に提供するか。RO 3月号で、図書館司書の上田友彦さんが『あるエスペランチ

ストの夢』1500円を出版したことを報告されていた。同書には「図書館を考える」と題する文章も収録されており、NECでも購入したい。

2 今後の蔵書担当業務について（伊藤俊彦）

(1)蔵書受入の記録

今後、高齢者の物故に伴い蔵書の受入が増加すると思われるが、そのつど、冊数はどれくらいか、主だった図書・雑誌にはどんなものがあるか、などを記録する。竹崎睦子、後藤正治等の蔵書も量、内容等は明らかにされていない。これらも順次、調査の上、記録を作成し、センター通信、HPなどで報告する。

(2)整理・処分の基準

センターの収蔵スペースには限りがあるため、図書・雑誌の整理・処分（廃棄、販売等）を行う場合の基準（重複本など）を定め、記録を残す。

(3)戦前の稀覯本などの整理

センターの蔵書には、Esperanta Biblioteko Internacia、EKRELO、エスペラント研究社等から刊行された戦前の刊行物が大量にあり、これらを整理・分類したい。

(4)広報

上記のとおりセンターには多数の貴重な蔵書があり、整理・保存等に多大の労力を投じてきたにもかかわらず、外部にはあまり知られず、利用も少ない。Facebookで旧竹中蔵書や旧梶蔵書、比嘉春潮蔵書等について4回報告したが、ごく初期的な段階にとどまっている。今後もセンター通信、HP、Facebookなどで、テーマ別の貴重書の紹介など積極的に広報し、利用促進に努める。

読書会Ni legu報告

1 日時・会場

2017年度の日程は以下のとおり。時間は午後4～6時。会場はセンター事務所（ただし、2018年2/28のみ、「えほんのもり」）。

2017年 4/25、5/30、6/27、7/11、8/16、9/26、10/17、11/29、12/19、

2018年 2/28、 合計10回開催（なお、年度内に3/28開催予定）

2 参加者

米川五郎、山田義、前田可一、鈴木善彦、小川博仁、伊藤俊彦

3 進め方等

毎回、予め指定された範囲（10～20ページ）を予習し、当日は参加者が順番に1ページほど読んだ上で内容を要約し、その後全員で、理解できなかった箇所、時代背景、執筆者の見解などテキストの解釈をめぐって自由に発言し、討論するというやり方で進めた。

4 実施状況の報告・次回の予告

各回の内容を名古屋エスぺラントセンターのFacebookで、読書会終了後そのつど報告した。今年度は、センター通信には転載しなかったが、今後、随時報告を掲載し、参加を募りたい。

5 テキスト

読書会Ni legu は2014年6月12日発足以来、間もなく4年になろうとしているが、これまでに読んだテキストは以下のとおりである。

- ・ Hori Jasuo “Raportoj el Japanio 15” 2014. 6/12 ～ 6回
- ・ Julian Modest “Mara Stelo” 2015. 1/29 ～ 5回
- ・ Monato 2015. 7/28 ～ 7回
- ・ Julian Modest “La viro el la pasinteco” 2016. 1/24 ～ 10回
- ・ István Nemere “Krokize de mia ĝardeno” 2017. 1/27 ～ 7回
- ・ Kalle Knivillä “Homoj de Putin” 2017. 8/16 ～ 6回

6 まとめ

現在読んでいるテキストは、ロシア人へのインタビューを通じてロシア現代政治を分析したもので、ソ連・ロシア史の知識がないと理解が難しい。しかし、エスぺラントによって同時代の生々しい政治状況を知ることができるのは新鮮な体験であり、今後も多彩なジャンルのテキストを読んでいきたい。

2017年度総務

郵便物を整理し、室内清掃に努めた。

地方会等の機関誌等を時系列にファイリングした。

概ね月1回開催されるセンター委員会の議事・報告事項を文書化しセンター委員へメール報告した。

備品等の受け入れ 竹崎陸子基金により室内蛍光灯14本を交換した。

センター委員会開催日

2017年

4月26日、5月12日、6月9日、7月7日、9月19日、10月27日、11月23日、

2018年

1月9日、2月20日

センター利用日数

65日。(参考、2015年度65日、2016年度48日)

部屋の利用者は必ず日誌に記入することを引き続き徹底する必要がある。

2017年度事務分掌について

委員長 山口眞一

副委員長 山田義、伊藤俊彦

会計 鈴木善彦

企画 堀田裕彦、山口眞一

教育 後藤好美

広報 猪飼吉計

ホームページ 山口眞一

センター通信 猪飼吉計

蔵書 山田義、伊藤俊彦、湯浅典久

総務 前田可一

センター通信 報告者 猪飼吉計

第284号 2017-06-09

名古屋エスペラントセンター訪問(山川節子) .

Vizito al Nagoja Esperanto-Centro(Yamakawa Setuko).

エスペラント・セミナリーオ参加者のセンター訪問について(鈴木善彦)

林好美さん関連のニュース(山田義) 2017年度センター委員長として(山口眞一)

総会報告

2017年度委員会分掌・行事案内・お知らせ

第285号 2017-09-19

Mia agado en la UK(YAMAGUTI Sin'iti).

世界エスぺラント大会に参加して(水谷章子)

ソウル大会参加報告(山田義)

活動報告.

えほんのもりで世界の民族楽器演奏体験会(伊藤俊彦)

竹崎睦子基金(山田義)・編集後記.....12

第286号 2017-11-23 (ホームページには未掲載)

Mia Impreso pri Koreio(SuzukiYoŝihiko)

ソウルUKメモ(前田可一)

世界大会報告(猪飼吉計)

ワールド・コラボ・フェスタ2017を振り返って(後藤好美、山田義)

ガーボル氏、母校の南山大学を表敬訪問(猪飼吉計)

第104回日本エスぺラント大会の出店報告(猪飼吉計)

ザメンホフ祭案内.....12

第287号 2018-02-20 ホームページには未掲載

ザメンホフ祭2017の報告(山口真一)

Iom pri “Leteroj de MITUISI Kiyosi”(NAKAYAMA Kinzi).

“NEC signife helpis mian karieron” Aŭtobiografieto (MÁRKUS Gábor)

エスぺラント・セファール試験(猪飼吉計)

2018年度委員会分掌

- ▶ 委員長 山口真一
- ▶ 副委員長 伊藤俊彦・永瀬義勝
- ▶ 会計 鈴木善彦
- ▶ 企画教育 山口真一・堀田裕彦
- ▶ 広報 山口真一・堀田裕彦
- ▶ 機関誌 猪飼吉計
- ▶ 蔵書 山田義・伊藤俊彦・湯浅典久
- ▶ 総務 前田可一

新入会の挨拶

今井田健二

皆さまはじめまして。3月に入会しました今井田健二です。大学図書館で司書として働いています。

2年ほど前のある日、国際語＝英語という風潮に疑問を抱き、「よし、エスペラントをやろう」と決心しました。言語としてのエスペラントを学ぶとともに、ザメンホフの理念や運動史を知ることで、平和・人権・宗教など社会全体に対する興味も広がり、エスペラントの魅力にどっぷり浸かることとなりました。最近では、イシガオサム（石賀修[1910-1994]：エスペランティスト・翻訳家・兵役拒否者）に関心を抱き、彼の著書や雑誌記事を集めています。

先日JEIの学力検定試験（4級）を受験し、無事合格いたしました。今後も上の級を目指して学習に励むとともに、生涯にわたってエスペラントに関わっていきたいと思っています。経験豊かな皆さまに色々ご指導いただければ幸いです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

再入会の挨拶

後藤みわこ

今年度からNECに加えていただきました。

正確に言えば再加入です。最初の加入時の名は「吉田美和子」でした。

ブランクは30年近くあります。その間に結婚して後藤姓となり、娘をふたり産み（成人済み）、ひよんなことから児童文学を書きはじめて、今は児童文学作家としても仕事をしています（「後藤みわこ」は日常使っている名であり、筆名でもあります）。

エスペラント語との接点は、ほとんどありませんでした。たまにTwitterでエスペラントについてつぶやくと、知らないエスペランティストからリプライがくる……その程度でした。

それなのに再加入を決めた理由は、大小いくつもあって説明しきれません。

高校時代には大阪・高槻で、二十代はNECで初級講座を受けるなどしてきました。「三度目の正直」を試したくなかったのかもしれない。

細く長く、勉強していきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

活動日誌（3月末から5月）

- 3/28（水） 16時から18時 読書会
3/28（水） 18時から20時 勉強会（堀和子）
4/6（金） 17時半から19時半 初級講習会
4/17（火） 16時から18時 読書会
4/24（火） 18時から20時 センター委員会
4/27（金） 17時半から19時半 初級講習会
5/15（火） 17時半から19時半 初級講習会
5/22（火） 16時から18時 読書会
5/29（火） 17時半から19時半 初級講習会
5/30（水） 17時から20時 「センター通信」 発送作業
およびセンター委員会

今後の地区の予定

第30回愛知サマーセミナー

7月14（土）15（日）16（月・祝）の三日間

会場は椋山女学園大学、椋山高校、椋山中学

名古屋エスペラントセンターとして14日の一講座を申し込みました。講座名は「国際語エスペラント」。講師は山口真一

名古屋エスペラントセンターの交流会

9月9（日）10（月）の一泊二日、八ヶ岳エスペラント館にて

15名の貸切。詳細は今後の誌上をご覧ください。

会員近況

小川博仁さんは、この四月、大阪大学の大学院修士課程（文学研究科 文化動態論専攻 言語生態論コース）に進学しました。

TOKAI-KONGRESO DE ESPERANTO POR 2018

Nagase Yoshikatsu

Tokai-Kongreso de Esperanto por 2018 okazis la 19-an kaj la 20-an de majo ĉe la komunum-centro de Tachibana en Nagoya. Ĝi estis ne tiel granda por nomi ĝin kongreso. Sed laŭ la enhavo la evento certe meritas esti nomita "kongreso", kvankam pli ĝuste dirite kongreseto reale.

(5月19日、20日に橘コミュニティーセンターにて行われた、2018年東海エスペラント大会の速報。詳細の報告は次号で掲載の予定)



▶編集後記

288号をお届けいたします。第一次締め切りまでに集まった原稿は日本語ばかりで、なかでも半分近くを占めるのが、センターの定例総会の関連記事です。2017年度の1年間の活動を振り返り、今後の活動を展望していただけたら幸いと存じます。(猪飼吉計)

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。